

政策企画部

令和4年度 重点目標

- 1 第二次上田市総合計画（第2期上田市版総合戦略）に掲げる将来像の実現とSDGsの推進
- 2 長野大学の改革促進と学園都市づくりの推進
- 3 日本遺産、文化芸術やスポーツを生かした魅力ある都市づくりの推進（文化スポーツ観光部へ）
- 4 サントミュージゼを拠点とした文化創造都市実現に向けての「育成・市民協働・鑑賞」事業の推進（文化スポーツ観光部へ）
- 5 選ばれる都市を目指した情報発信とシティプロモーションの戦略的な展開（一部文化スポーツ観光部へ）

令和4年度 重点目標管理シート

重点目標	第二次上田市総合計画（第2期上田市版総合戦略）に掲げる将来像の実現とSDGsの推進		部局名	政策企画部	優先順位	1位
総合計画における位置付け	後期まちづくり計画 「重点プロジェクト」 人口減少・少子化対策プロジェクト	上田再構築プラン Ver.2.0「もっと、前へ」に おける位置付け	緊急 新型コロナ対策と即効性のある社会経済対策 2 教育・子育ての環境・文化の充実を促進する 5 DXやGX等の革新的技術でSDGsを推進、人と自然が調和した活力あるまちをつくる			
第四次上田市行財政改革大綱・アクションプログラムにおける位置付け	(1) 将来を見据えた新たな行政サービスへの改革 (2) 健全で持続可能な財政基盤への改革 (3) 時代に即した行政運営への改革					
現況・課題	<ul style="list-style-type: none"> 総合計画（総合戦略）の着実な推進と進捗管理、また、地方創生推進協議会による地方創生事業のPDCAサイクルを確立する。 後期まちづくり計画に反映したSDGsの達成に向け、多様な主体と連携した施策を構築し、全市的に取り組んでいく必要がある。 第3次定住自立圏共生ビジョンの着実な推進と進捗管理を行う必要がある。 					
目的・効果	<ul style="list-style-type: none"> 他部局との政策間連携を進め、総合計画の施策展開により地域の活性化と人口減少社会に対応したまちづくりを目指す。これらの取組の推進により、SDGsに掲げる持続可能な社会の実現に繋げる。 上田地域定住自立圏域全体の魅力創出、住民満足度の向上を図り、定住人口の確保及び交流人口の増加に繋げる。 		該当するSDGsの目標			
取組項目及び方法・手段（何をどのように）	期間・期限（いつ・いつまでに）	数値目標（どの水準まで）	中間報告（目標に対する進捗状況・進捗度）及び（中間報告の時点で取組項目に対する方法・手段の見直しを行った点）		期末報告（目標に対する達成状況・達成度）	
① ○ 第二次上田市総合計画 後期まちづくり計画、第2期上田市まち・ひと・しごと創生総合戦略、上田再構築プラン2.0の推進 (1) 重点プロジェクトを中心とした施策の推進 (2) 令和3年度地方創生関係事業の評価・検証 (3) 令和4年度地方創生関係事業の実施と令和5年度事業の検討・準備 (4) 計画的な土地利用の推進 (5) 総合教育会議を通じた、教育委員会との連携強化	(1) 3月 (2) 5～7月 (3) 3月 (4) 3月 (5) 3月	(1) 「地域アプローチ」による少子化対策の推進に関する令和4年度調査研究事業（内閣府）による、少子化を取り巻く上田市の課題の明確化 (2) 上田市地方創生推進協議会による評価・検証と公表、国へ報告 (3) 地方創生推進交付金、地方創生応援税制、新型コロナウイルス感染症対応地方創生臨時交付金の活用 (4) 市内1地域における、地元合意形成を経た土地利用の方向性確立 (5) 「総合教育会議」において重点テーマを協議	(1) 庁内関係課から選出した12名の職員によるワーキングチームを組織し、6月にキックオフミーティングを開催。その後市WSを2回、県WSを1回開催し、データ分析を行った。 (2) 令和3年度地方創生関係事業について地方創生推進協議会による効果検証を実施し結果を市HPIに公表した。 (3) 令和4年度地方創生推進交付金事業（4件）の交付決定を受け事業実施中。応援税制は4件の寄附申出を受付。コロナ臨時交付金を申請（第1回）し39事業について交付決定、現在実施中。 (4) 市内1地域の土地利用に対する市の考え「土地（農地）利用の方向性(案)」をまとめ、4月下旬に開催した地元関係者で組織する「土地利用検討会議」において情報共有を図るとともに、9月には人・農地プランアンケート結果に基づく将来の農地の利用予測を行った。 (5) 第1回（10月24日開催予定）に向けた準備・調整を行った。		(1) 12名のワーキングチームによる4回の市WS、2回の県WSを行い、少子化を取り巻く市の課題抽出、施策の方向性をまとめ、2/22に成果発表を行った。 (2) 令和3年度地方創生推進交付金の実績について、地方創生推進協議会からの意見やKPI達成度をまとめた事業実施報告を国に提出した。 (3) 令和4年度地方創生推進交付金について、交付決定事業の実施と実績報告、また新規を含む令和5年度事業の交付申請を行った。地方創生応援税制について、8件、3,000千円の寄附を受納した。コロナ臨時交付金について、第3回申請まで行い、69事業、1,580,482千円の交付決定を受けた。 (4) 道路整備計画に直面している市内1地区において、市と地元関係者で組織する検討会議を3回開催し、地元要望に基づく土地利用の当面の方向性を決定した。 (5) 第1回：西内小学校の統合、GIGAスクール構想の可能性 第2回：上田市の不登校支援について	
② ○ SDGsの着実な推進 (1) 事務事業とSDGsの紐付けと着実な事業推進 (2) SDGs実行計画（3か年）の策定	(1) 10月 (2) 3月	(1) 実施計画におけるSDGs関連事業の集約・整理 (2) SDGs未来都市認定を前提とした実行計画（3か年）の策定	(1) 実施計画策定方針の基本方針において、SDGsの推進を明記し、要求事業の集約・整理を行った。 (2) 5月20日に「SDGs未来都市」に選定されたことを受け、8月末までに3年間に取り組む事業等をまとめた「SDGs未来都市計画（3年計画）」を策定・公表した。		(1) 実施計画の査定において、SDGsの重要施策（地方創生、脱炭素、スマートシティ等）の推進が図られる事業を掲載した。 (2) 8月末に今後3年間で取り組む事業計画となる「SDGs未来都市計画」を策定・公表するとともに、2/18には、市民を対象にSDGsの理念の共有・拡大を図るためのスターアップシンポジウムを開催した。	
③ ○ 第3次上田市定住自立圏共生ビジョンの施策管理 (1) 第3次共生ビジョンの着実な推進と進捗状況の検証	(1) 3月	(1) 幹事会、連絡協議会（首長級）、ビジョン懇談会（有識者会議）各1回開催	(1) 7月21日に定住自立圏連絡協議会幹事会を開催し、取組項目の進捗状況等を確認した。		(1) 幹事会2回、連絡協議会を1回、共生ビジョン懇談会を1回それぞれ開催し、第3次共生ビジョンの評価及び次年度に向けた計画の修正を行った。	
特記事項	○市民参加・協働の推進、市民満足度の向上を考慮した点		○取組による効果・残された課題			

令和4年度 重点目標管理シート

重点目標	長野大学の改革促進と学園都市づくりの推進		部局名	政策企画部	優先順位	2位		
総合計画における位置付け	第5編 生涯を通じて学び豊かな心を育むまちづくり 第1章 次代を担う人づくり 第2節 高等教育機関との連携による地域の魅力や活力の向上		上田再構築プラン Ver.2.0「もっと、前へ」における位置付け	2 教育・子育ての環境・文化の充実を促進する ●教育環境の充実 ②長野大学の学部再編、学園都市づくり				
第四次上田市行財政改革大綱・アクションプログラムにおける位置付け	(1) 将来を見据えた新たな行政サービスへの改革 イ 多様な主体が市政に参画・協働する制度づくり (2) 健全で持続可能な財政基盤への改革 オ 受益と負担のあり方の見直し							
現況・課題	・若年層の県外流出をくい止め、県外からの学生を定着させるため、公立大学法人長野大学と「信州上田学」や「まちなかキャンパスうえだ」の取組を核として、市内の高等教育機関と連携した学園都市づくりを進める必要がある。							
目的・効果	・市内の5大学等との連携による「まちなかキャンパス事業」の充実により、地域に開かれた大学を目指し、まちなかに賑わいを創出する。		該当するSDGsの目標					
	取組項目及び方法・手段（何をどのように）	期間・期限（いつ・いつまでに）	数値目標（どの水準まで）	中間報告（目標に対する進捗状況・進捗度）及び（中間報告の時点で取組項目に対する方法・手段の見直しを行った点）	期末報告（目標に対する達成状況・達成度）			
①	○ 公立大学法人長野大学の改革促進 (1) 学部学科再編等の協議を進める長野大学と連携し、大学改革の着実な促進に加え、大学院や淡水生物学研究所などの特徴を活かし、関連機関等との連携を図る。 (2) 評価委員会における公立大学法人長野大学の業務実績評価等の効率的な運用調整を図る。 (3) 第2期中期目標 (R5～R10年度) の策定。	(1) 通年 ・ 年内 (2) 5～12月 (3) 年度内	(1) 長野大学及び関連機関との協議 ・ 施設整備に係る財源や基金等の調整 (2) 評価委員会での協議 (3) 6年間の期間で達成すべき業務運営に関する目標の設定(議決必要)	(1) 長野県高等教育振興課との協議 (5月) ・ 大学派遣職員中、技術職員1名の増員、法人運営改革室の設置 (2) 評価委員会 (3回開催) においてR3の業務実績を評価9月議会において報告 (3) 第2期中期目標案の策定と、評価委員からの意見聴取、パブリックコメントの実施	(1) 市理事者と法人正副理事長との協議 (R5.2月)、県協議 (R4.5月、R5.1月) ・ 令和5年3月上田市議会定例会の全員協議会において、学部学科再編及び施設整備の財務シミュレーションと工程表を報告 (2) 評価委員会においてR3の業務実績を評価、9月議会において報告 (3) 第2期中期目標を、評価委員からの意見聴取により作成、12月議会で議決			
②	○ 学園都市構想の策定と推進 市内5大学等が共同で運営する「まちなかキャンパスうえだ」について、コロナ禍での取組の充実を検討するとともに、「(仮称)学園都市構想」の策定に向け、大学同士、また、企業等との連携を検討する。	・ 通年 ・ 年度末	・ 「まちなかキャンパスうえだ」市民向け講座の実施数 20講座 (コロナ前R1実績21講座同水準) ・ 構想(ビジョン)策定に向けた調査・研究	・ まちなかキャンパスでの市民向け講座数2講座実施 ・ 構想の策定に向けた方向性の確認、調査・検討	・ まちなかキャンパスでの市民向け講座「メンタルヘルスケア研修」など合計13講座実施 ・ 構想の策定に向けた方向性の確認、庁内調査・検討			
③	○ 「信州上田学」事業の充実と展開 「信州上田学」の取組について、公民館や各大学、コーディネーター等と連携し、まちなかや各地域(上田・丸子・真田・武石)での上田未来会議の企画・展開とともに、幼保小中高大のそれぞれのライフステージに応じた学びの機会の提供を進める。	・ 通年	・ ライフステージ毎の信州上田学(幼保小中高への出前講座等) ・ 長野大学と上田女子短期大学との連携による信州上田学事業の推進 ・ 上田未来会議(地域版・学生版の未来学ゼミを含む)の企画運営	・ 公民館事業への「信州上田学」冠付与7件、ほか出前講座1件(高校) ・ 長野大学での信州上田学講座実施(22名受講)、上田女短との調整 ・ 上田未来会議第1回目の開催、2回目以降の準備	・ 公民館事業への「信州上田学」冠付与76件(延べ3,823人 R5.3.28現在)、ほか出前講座5件(保育園3、中学1、高校1 251人参加) ・ 長野大学での信州上田学講座実施(121人受講)、上田女子短期大学でのデザインキャンプ(のべ57人参加)など ・ 上田未来会議通算7回開催(のべ160人参加)			
特記事項	○市民参加・協働の推進、市民満足度の向上を考慮した点			○取組による効果・残された課題				

令和4年度 重点目標管理シート

重点目標	日本遺産、文化芸術やスポーツを生かした魅力ある都市づくりの推進		部局名	政策企画部	優先順位	3位		
総合計画における位置付け	第5編_第2章_第2節 生涯スポーツ活動の推進とスポーツ環境の整備 第6編_第1章_第1節 文化遺産の継承と活用 _第2節 育成を基本理念とした文化芸術活動への支援と文化創造	上田再構築プラン Ver.2.0「もっと、前へ」における位置付け	2.教育・子育て環境・文化の充実を促進する ●上田城復元的整備、日本遺産活用、サントミュージゼ活用					
第四次上田市行財政改革大綱・アクションプログラムにおける位置付け	(1) 住みたい住み続けたいと思うまちづくりへの改革 ア 移住・定住・交流人口を増やす体制の確立							
現況・課題	○世界が認めたトレーニングキャンプ地として、国内外から集客を高め、スポーツによる交流人口を増加させる取組が重要です。 ○「第二次上田市文化芸術振興に関する基本構想」を総合的に展開していく必要があります。市民団体等と連携しながら、文化芸術活動を支える団体や次世代を担う人材を育成し、文化活動の輪を広げていくことが重要です。 ○令和2年6月19日に文化庁から認定されたレイラインがつなぐ「太陽と大地の聖地」龍と生きるまち信州上田・塩田平をテーマとする日本遺産を活用した人材育成、普及啓発、情報発信及び調査研究等の事業を総合的に展開していくことが重要です。							
目的・効果	○トレーニングキャンプ地としてのPRを積極的に進め、国内外のトップアスリートの合宿受入れを一層図ることで、ラグビー合宿地、そしてトレーニングキャンプ地としての菅平高原の知名度向上を図り、上田市全体でトップアスリートを支える機運を高めます。また、スポーツを通じて交流人口が増加することで、地域振興を図ります。 ○市民による文化芸術活動を充実させ、地域に根差した文化活動や新たな文化創造を支援することにより、「人」、「文化」、「まち」が育まれる魅力あるまちづくりを目指します。 ○上田市日本遺産推進協議会を中心に、日本遺産を活用した各種事業を通じて、観光振興及び地域の活性化を目指します。		該当するSDGsの目標					
	取組項目及び方法・手段（何をどのように）	期間・期限（いつ・いつまでに）	数値目標（どの水準まで）	中間報告（目標に対する進捗状況・進捗度）及び（中間報告の時点で取組項目に対する方法・手段の見直しを行った点）	期末報告（目標に対する達成状況・達成度）			
①	○ 上田市日本遺産推進協議会との連携・協働による日本遺産活用事業の推進 (1) 人材育成事業の実施 ・有償ガイド講座 (2) 普及啓発事業の実施 ・シンポジウム、パネル展、セミナー等の開催 (3) 調査研究事業の実施 ・文化財群の追跡調査 (4) 情報発信・活用整備事業の実施 ・アプリ、タクシー車両用マグネットシート制作 ・文化財施設等への看板設置 ・インバウンド向けパンフレット、動画等制作	(1) 7～12月 (2) 8～2月 (3) 通年 (4) 通年	(1) 人材育成事業の実施 ・有償ガイド講座（中級）の開催 (2) 普及啓発事業の実施 ・シンポジウム、パネル展、セミナー、バスツアー等 (3) 調査研究事業の実施 ・文化財群の追跡調査 (4) 情報発信・活用整備事業 ・日本遺産アプリ、マグネットシート制作 ・文化財施設等への看板設置 ・外国人向けパンフレット・動画制作 ・シェアサイクル、ポールウォーキング及び太鼓演奏	(1) 人材育成事業 有償ガイド講座（中級編）は6・7月に3回開催し、14名が参加した。 (2) 普及啓発事業 パネル展は7・8月に商業施設2か所、市民セミナーは7月24日に、獅子舞演舞及び百八手は9月24日に実施した。 (3) 調査研究事業 塩田平ため池群の追跡調査を実施している。7月には、ため池群が構成文化財に追加認定された。 (4) 情報発信・活用整備事業 6月29日に、マグネットシートを掲出したタクシー車両を披露した。多言語パンフレット（中国語）やBS-TBS日本遺産（中国語版）を制作した。バスツアーは6月14日、8月4日の2回、千曲市日本遺産ツアーは7月29日に、ルディックウォーク及び太鼓演奏等は7月10日に実施した。	(1) 人材育成事業 有償ガイド講座中級編（3回14名）を実施し、スキルアップを図った。 (2) 普及啓発事業 パネル展（7・8月2箇所）、セミナー（7/24）、獅子舞演舞及び百八手（9/24）、シンポジウム（12/18）を実施することで、市民へ普及啓発を図った。 (3) 調査研究事業 塩田平ため池群の追跡調査を実施し、7月にため池群が構成文化財に追加認定され、市内外へ広く周知した。 (4) 情報発信・活用整備事業 マグネットシートを掲出したタクシー車両の披露（6/29 95台）、多言語パンフレット（中国語）やBS-TBS日本遺産（中国語版）の制作、バスツアー（6/14、8/4 2回32名）、千曲市日本遺産ツアー（7/29）、ルディックウォーク及び太鼓演奏（7/10）、構成文化財3施設へスポット看板設置（12月）、シェアサイクルを紹介したデジタルマップや日本遺産ウェブサイト制作（3月）。これらの取組を通じて、日本遺産の魅力発信や回遊性の向上に努めた。			
②	① トップアスリートとの市民交流とキャンプ受入れ ② イタリアレガシーの創出 (1) イタリア文化交流の促進 (2) 自治体連携組織における幹事自治体(全国10自治体)としての参画 ③ ホストタウン事業による、中国との文化的交流の推進 ・ 中国文化を紹介するイベントの開催	① 通年 ② (1) 10月 (2) 通年 ③ 1月	① 官民協働のもと、菅平高原におけるチームの合宿誘致、タグラグビー教室、スポーツ振興講演会 ② (1) イタリア文化交流イベント（室内コンサート、交流フェア）の開催 (2) 連携組織の事業構築について、幹事自治体として参画 ③ 中国文化を紹介するイベントを開催	①西小学校でパラスキー選手との交流会は6月15日に、ラグビー観戦ツアーは7月9日に実施した。9月11日に、女子ラグビー日本代表チームの菅平合宿へ訪問し、市長が激励した。8月には菅平高原の魅力発信につながるSNS投稿キャンペーンを実施した。11月26日に元ラグビー日本代表選手によるスポーツ振興講演会を予定。 ② (1) 約3年ぶりに、サントミュージゼ大ホール及び芝生広場でイタリア文化交流フェアを開催予定。 (2) WEBによる担当者会議に参加した。 ③コロナ感染症対策を講じて、1月29日に中国文化紹介イベントなどの事業実施に向けて準備している。	①西小学校とパラスキー選手交流会（6/15 100名）、ラグビー観戦ツアー（7/9 40名）、女子ラグビー日本代表チームの菅平合宿市長激励（9/11）、菅平高原の魅力発信SNS投稿キャンペーン（7/29～8/31）。元ラグビー日本代表選手によるスポーツ振興講演会（3/19 690名）。これらの事業を通じて、トップアスリートと市民の交流を深める機会を創出した。 ② (1) 約3年ぶりにサントミュージゼ大ホール及び芝生広場でイタリア文化交流フェア（10/1・2 4,700名）を開催し、イタリアのレガシー創出に繋がった。 (2) WEBによる担当者会議に参加した。 ③コロナ対策を講じながら、中国文化を紹介するイベントとして中国雑技団の披露（1/29 1,150名）。ホストタウン事業を通じて、市民に中国文化に触れる機会を創出した。			
③	○ 市民や文化団体との連携・協働による文化事業の推進と人材育成の充実 (1) 文化団体連携事業の開催 ・上田城跡能・うえだ城下町映画祭 ・シリーズ文化講演会など (2) 子ども文化講座、子ども文化祭の開催 (3) 小中学校への芸術家派遣事業	(1) 上田城跡能（8月） 城下町映画祭（11月） 文化講演会（3月） (2) 10月 2月 (3) 7・9・10月	(1) 市民協働による文化事業の推進 ・上田城跡能（8月） ・うえだ城下町映画祭（11月） ・シリーズ文化講演会（3月） (2) 子ども文化講座（1回）、子ども文化祭（1回）の開催 (3) 芸術家学校派遣事業（3校）を実施	(1) 新型コロナウイルス感染症対策を講じ、上田城跡能は8月27日に開催した。うえだ城下町映画祭は11月11、12、13日に開催予定。シリーズ文化講演会は上田・丸子・真田で2・3月に3回開催予定。 (2) 新型コロナウイルス感染症対策を講じ、子ども文化講座は10月22日に開催予定。子ども文化祭は2月開催予定。 (3) 芸術家学校派遣は、7月15日・9月15日に2校実施、10月6日に1校開催予定。	(1) 新型コロナウイルス感染症対策を講じ、上田城跡能（8/27）、うえだ城下町映画祭（11/11・12・13 750名）、シリーズ文化講演会（2～3月上田・丸子・真田3回 1,140名）。 (2) 子ども文化講座（10/22 450名）、子ども文化祭（2/4・5 900名） (3) 芸術家学校派遣（7/15、9/15、10/6 計3校で実施。参加者240人） これらの事業を通じて、市民と連携した文化事業の推進を図った。			
特記事項	○市民参加・協働の推進、市民満足度の向上を考慮した点			○取組による効果・残された課題				

令和4年度 重点目標管理シート

重点目標	サントミュージゼを拠点とした文化創造都市実現に向けての「育成・市民協働・鑑賞」事業の推進		部局名	政策企画部	優先順位	4位
総合計画における位置付け	第6編 文化・交流・連携 第1章 多彩な文化芸術の継承と創造 第2節 育成を基本理念とした文化芸術活動への支援と文化創造		上田再構築プラン Ver.2.0「もっと、前へ」における位置付け	教育・子育て環境・文化の充実を促進する ・上田城復元的整備、日本遺産活用、サントミュージゼ活用		
第四次上田市行財政改革大綱・アクションプログラムにおける位置付け	(2) 健全で持続可能な財政基盤への改革 エ 公共施設マネジメントの推進 オ 受益と負担のあり方の見直し					
現況・課題	「文化の薫る創造都市うえだ」の拠点施設としてサントミュージゼには、「育成」を基本理念の根底に据え、文化芸術のもつ多面的な効果を通じて、ひと・まち・文化を育む事業展開が期待されてきました。複合施設として多様で質の高い芸術に対応できる空間を用意し、市民がさまざまな芸術文化と触れあえる機会を提供するとともに、市民自らが、さまざまな形で発表できる場を提供することが求められています。					
目的・効果	サントミュージゼを文化創造の拠点施設と位置付け、上田市の有する地域文化や歴史的、文化的遺産等の資源を活かし、地域の将来を担う子どもたちの育成を目指します。また、文化芸術のもつ力や多面的な効果を活かし、人が集まることでの交流人口の増加やまちに賑わいと活気をもたらすことで、観光や商業、地場産業など地域経済への波及効果も期待し、心豊かな都市創造の拠点とします。		該当するSDGsの目標			
取組項目及び方法・手段（何をどのように）	期間・期限（いつ・いつまでに）	数値目標（どの水準まで）	中間報告（目標に対する進捗状況・進捗度）及び（中間報告の時点で取組項目に対する方法・手段の見直しを行った点）		期末報告（目標に対する達成状況・達成度）	
① ○ 文化創造都市としての「創造育成」事業の推進 (1) 小学校や地域の公民館等へアーティストがいき、ワークショップ、コンサートを開催する「芸術家ふれあい事業」の実施 (2) 「子どもアトリエ事業」の実施、及び、一般市民向け講座の実施（高校生以上） (3) 地域のアーティスト育成事業として、新人演奏会を実施	(1) 4～3月 (2) 4～3月 (3) 8月、1月	(1) 市内全小学校25校、9地域（公民館等）で実施 (2) 体験型プログラム・講座等を50回開催 (3) 8月と1月に最優秀賞者及び優秀賞者の演奏会を実施	(1) 市内小学校14校、5地域（公民館等）で実施 (2) 体験型プログラム・講座等を76回開催 (3) 8月に最優秀賞受賞者のピアノリサイタルを開催		(1) 市内全小学校25校、9地域（公民館等）で実施 (2) 体験型プログラム99回、市民向け講座50回を実施（合計149回） (3) 8月に最優秀賞受賞者のピアノリサイタル、1月に優秀賞2名によるジョイントリサイタルを実施	
② ○ 市民とともに歩む「市民協働」事業の推進 (1) 市民参加型事業の充実 (2) 市民団体と協働した企画展示会の実施	(1) 8～12月 (2) 4～12月	(1) 市民及び高校生との演劇・ダンス・音楽4公演、演劇・ダンスのワークショップ9回 (2) 遠藤彰子展の開催(12/16-2/12)	(1) 市民との演劇公演を1回、演劇・ダンスのワークショップを6回実施		(1) 市民との演劇公演を5回、演劇・ダンスのワークショップを10回実施 (2) 遠藤彰子展の開催(12/16-2/12)	
③ ○ 魅力ある「鑑賞」事業の推進 (1) 質が高く魅力ある公演、展示会の実施 (2) 市民から要望の多い公演、展示会の実施 (3) 身近に親しめる公演、展示会の実施 (4) 地元メディアや興行主との共催や、各種団体と連携した公演、展示会の実施	(1) 4～3月 (2) 4～3月 (3) 4～3月 (4) 4～3月	(1)～(4) ・ 市民要望に応えた自主事業45公演、提携事業3公演、共催事業4公演 ・ 美術館展示会9回開催	(1)～(4) ・ 市民要望に応えた自主事業21公演、提携事業3公演、共催事業1公演を実施 ・ 美術館展示会6回開催		(1)～(4) ・ 市民要望に応えた自主事業41公演、提携事業3公演、共催事業3公演を実施 ・ 美術館展示会10回を開催	
④ ○ 健全運営に資する事業経費の確保 (1) 国、県等の助成金の獲得、共催事業の活用 (2) サントミュージゼパートナーズ(上田市交流文化芸術センター賛助会員制度)による寄附の受け入れの推進。地域企業等との連携の強化。	(1) 4～3月 (2) 4～3月	(1) 国、県、財団法人等の助成金(3,500万円以上)の獲得。地元メディア等との共催事業の誘致。 (2) 自主財源として寄附金の獲得。企業等との事業での関係構築。	(1) 文化庁文化芸術振興費補助金等の申請を積極的に行うとともに、地元メディア等との共催事業を2回実施 (2) 15件のパートナーズを獲得した。		(1) 各種助成金3,690万円を獲得（文化庁文化芸術振興費補助金3,197万円、地域創造助成金493万円）。地元メディア等との共催事業を5回実施 (2) 15件のパートナーズを獲得した。	
⑤ ○ 適正な受益者負担への改正と管理経費の確保 (1) 使用料の改定による、市内及び県内の類似施設との不均衡の是正と、収入の確保	(1) 9月、3月	(1) 条例改正と公示(10月) 条例施行(翌4月)	(1) 9月市議会定例会において、上田市交流文化芸術センター条例及び上田市立美術館条例を改正した。		(1) 10月に条例改正と公示を行い、4月に改正条例の施行をした。	
特記事項	○市民参加・協働の推進、市民満足度の向上を考慮した点		○取組による効果・残された課題			

令和4年度 重点目標管理シート

重点目標	選ばれる都市を目指した情報発信とシティプロモーションの戦略的な展開		部局名	政策企画部	優先順位	5位	
総合計画における 位置付け	第1編 自治・協働・行政 第3章 地方分権にふさわしい行財政運営 第2節 市民と行政との情報共有の推進	第6編 文化・交流・連携 第2章 交流・連携、移住・定住促進による活力ある都市 第1節 上田市の魅力発信、選ばれる都市づくり	上田再構築プラン Ver.2.0「もっと、前へ」に おける位置付け	5 DXやGX等の革新的技術でSDGsを推進、人と自然が調和した活力あるまちをつくる			
第四次上田市行財政改革大綱・アクションプログラム における位置付け	(1) 将来を見据えた新たな行政サービスへの改革 ウ 市民への説明責任を果たす的確かつ積極的な情報発信						
現況・課題	新型コロナウイルスの感染拡大を機に働き方や生活様式が多様化する中、上田市が多くのことから「選ばれる都市」となるためには、当市の多様な魅力を市内外へ戦略的・効果的に発信していく必要があります。上田市の卓越性を活かし、「暮らしやすさ」をアピールするため、全庁体制で情報の共有化を図るとともに、行政だけでなく民間企業や市民団体等も含め総合的なシティプロモーションを展開し、生活情報・観光情報・産業情報に加え、医療や教育、子育て環境などの情報を、各種情報発信媒体の特性に応じ、タイムリーに発信していくことが重要となります。						
目的・効果	上田市の持つ「人・食・文化・産業・情報」など多様な魅力を市内外へ発信し、(シビックプライドの醸成を図りながら)多くのことから「来たい、また来たい、住みたい、住み続けたい都市」として選ばれる都市となることで将来に渡ってまちの活力を維持し、持続的発展が可能な都市の実現を目指します。 また、市職員が広報パーソンである意識を持ち、積極的に市民ニーズを把握し、市民の求める情報発信をするとともに、市民力を活用したインナープロモーションを推進していきます。		該当する SDGsの目 標				
取組項目及び方法・手段 (何をどのように)	期間・期限 (いつ・いつまでに)	数値目標 (どの水準まで)	中間報告 (目標に対する進捗状況・進捗度) 及び (中間報告の時点で取組項目に対する方法・手段の見直しを行った点)		期末報告 (目標に対する達成状況・達成度)		
① ○ 総合的・効果的な情報発信とシティプロモーションの戦略的な展開 (1) 上田市の多様な魅力を全庁で共有し、連携して情報発信するための庁内会議の開催 (2) 専用Webサイトやラジオ等による情報発信と市民力を活用したインナープロモーションの推進 (3) 関係人口や移住人口の創出に視点を置いた首都圏等への情報発信	(1) 4~3月 (2) 4~3月 (3) 4~3月	(1) 庁内連携会議の開催(3回程度) (2) 専用webサイトやラジオ等を活用した情報発信(毎週)と市民リポーターによる取材記事の配信(週1回程度) (3) 首都圏のテレビ等を活用した情報発信(番組放送12回)、写真投稿サイトを活用したフォトコンテストの開催(1回)	(1) 庁内連携会議を次年度予算編成時及び年度末に次年度準備に向けて開催していく。また、事業に合わせて関係課とワーキンググループ会議を5回開催した。 (2) 毎週のラジオ放送による情報発信と、市民リポーターによる取材記事を6件Web配信した。また、新たに市民リポーターの養成講座を8月から開催している。 (3) 首都圏向けの情報発信については、テレビ埼玉で6回番組放送を行った。写真投稿サイトを活用したフォトコンテストの開催については、後期開催に向け準備を進めている。		(1) 庁内連携会議を令和4年10月と令和5年3月に開催し、各課の取組状況や次年度の計画などの情報共有を行った。また、事業に合わせて関係課とワーキンググループ会議を5回開催した。 (2) 毎週のラジオ放送による情報発信と、市民リポーターによる取材記事を14件Web配信した。また、市民リポーターの養成講座を開催し、新しく8名の市民リポーターを養成した。 (3) 首都圏向けの情報発信については、テレビ埼玉で12回番組放送を行った。写真投稿サイトを活用したフォトコンテストを開催し、748作品の応募があった。		
② ○ 市民と行政が結ばれる、つながる広報の推進 (1) 広報うえだの充実 (2) メール・SNS等を活用した情報発信媒体の充実 (3) 職員の広報力を高める研修の実施	(1) 4~3月 (2) 4~3月 (3) 4~3月	(1) 記事内容の充実と、読みやすさの工夫 (2) Twitterフォロワー数の増加(14,600件→15,600件) (3) 広報活動・ホームページ研修の実施(2回)	(1) 「広報うえだ」特集記事の充実を図るとともに、紙面のレイアウト変更、文字数削減等、より見やすい紙面作りに取り組んでいる。 (2) 10月1日現在Twitterフォロワー数は15,182件へと増加。 (3) ホームページ操作研修会を実施(7月)。		(1) 「広報うえだ」特集記事の充実を図るとともに、関連した記事の集約やレイアウト変更等、より見やすい紙面作りに取り組んだ。 (2) 3月31日現在Twitterフォロワー数は15,510件へと増加。また、新たな情報発信媒体として令和4年12月1日に市公式LINEの運用を開始した。 (3) ホームページ操作研修会(7月)、広報活動研修会(11月)、上田市メール配信及びLINE操作研修会(11月)を実施。		
③ ○ オープンデータ化の促進 (1) 新規追加及び既存データ更新 (2) 上田市オープンデータサイトの利活用の促進	(1) 通年 (2) 通年	(1) 1分野の追加及び公開中データの随時更新 (2) 利活用を図るための調査研究	(1) 有形文化財の追加に向け、生涯学習・文化財課からデータの提供を受け作成中。 (2) 市のホームページに公開中のデータを随時更新。		(1) 上田市オープンデータサイト(市のホームページ)に子育て施設(保育施設)一覧と文化財(有形文化財)一覧を公開した。 (2) 同サイトに公開中のデータを随時更新した。		
特記事項	○市民参加・協働の推進、市民満足度の向上を考慮した点		○取組による効果・残された課題				